

こいしかりわん
古石狩湾

■石狩を覆っていた海

今からおよそ1万年前～5000年前、石狩市の南部から札幌市の北部にかけての低地は、海に覆われていました。その海は「古石狩湾」と呼ばれ、江別市や当別町、南幌町にまで入り込んでいました。

古石狩湾は浅い入江でした。湾の入口の両岸（現在の石狩市美登位、札幌市手稲前田）からは、堆積した砂によって細長い砂地「砂州」が伸びて、6000年前頃には湾の入口を砂州がふさぐような地形になっていました。現在のサロマ湖（北海道北東部）に似ていたと考えられています。

石狩市や札幌市の地下から掘り出される貝化石の種類から、当時の湾内は今よりも暖かく、現在の秋田県沿岸と同じくらいの海水温だったことがわかっています。また、6000年前のセミクジラやナガスクジラの化石も発見されており、クジラも生息していたことがわかります。

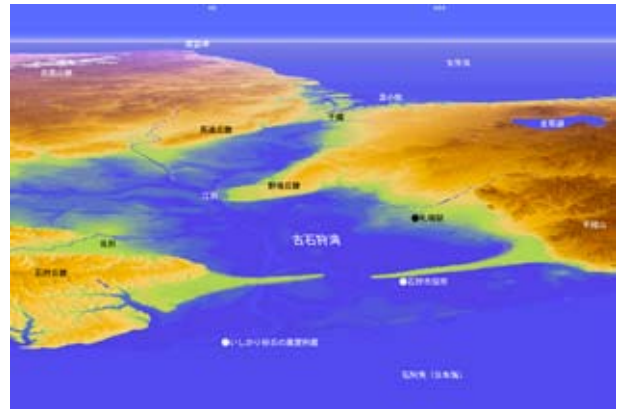
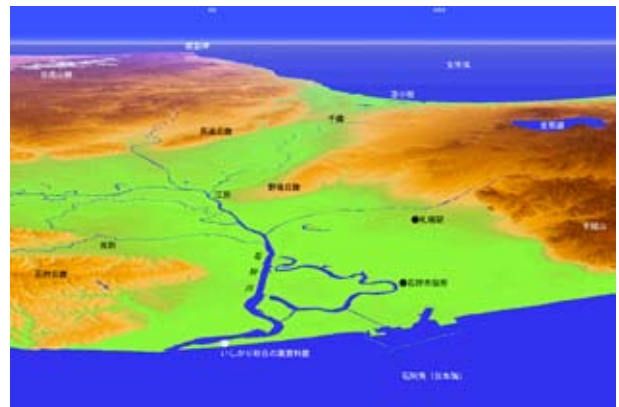
■古石狩湾はなぜできた？

今から約1万年前、地球全体は寒冷な気候から、現在に近い温暖な気候へと変化しました。すると大陸を広く覆っていた巨大な氷河が融けて、その分、海水面が上昇したのです。もっとも暖かい時期には、現在よりも3mほど海水面が高くなりました。そのために低い土地は海に沈んでしまっていたのです。

■古石狩湾はなぜ消えた？

もっとも暖かかった時期を過ぎると、海水面は下がっていくとともに、石狩川が運んでくる大量の砂や泥によって古石狩湾は埋め立てられていき、徐々に湿原のような陸地になりました。古石狩湾の入口にあった砂州は陸に取り残されて、紅葉山砂丘として地形に残されています。

(志賀健司)

約6000年前の石狩～札幌
(石狩湾上空からの鳥瞰図)

現在

(数値地図50mメッシュ(国土地理院)、数値地図ビューア(品川地蔵)を使用)

- (1) 赤松守雄・北川芳男(1983)北海道石狩低地帯北部域における完新統自然貝殻層. 北海道開拓記念館研究年報, 11: 35-53.
- (2) 貝塚爽平・成瀬洋・太田陽子・小池一之(1995)新版日本の自然4/日本の平野と海岸.
- (3) 小嶋尚・野上道男・小野有五・平川一臣(2003)日本の地形2/北海道.
- (4) 松下勝秀(1979)石狩海岸平野における埋没地形と上部更新～完新統について. 第四紀研究18: 69-78.
- (5) 嵯峨山積・田中洋行・西田浩太(2008)北海道石狩低地帯北部に存在した約6千年前の潟湖の証拠. 北海道立地質研究所報告, 79: 1-7.
- (6) 嵯峨山積・外崎徳二・近藤務・岡村聡・佐藤公則(2010)北海道石狩平野の上部更新統～完新統の層序と古環境. 地質学雑誌116: 13-26.